企画・制作　（株）読売広告西部　広告

夫婦で向かい合う

不妊治療のいま

―― 特定不妊治療については費用の一部を公費助成 ――

妊娠を望む夫婦の約10%が不妊症

不妊症が増加している。背景には女性の晩婚化、晩産化があり、また卵子の老化が取り上げられ大きな話題になっているが、一因として子宮筋腫や子宮内膜症、子宮がんなどの婦人科疾患やクラミジアや淋菌などの骨盤内感染症なども原因といわれる。近年は男女ともに生活の環境やスタイルが大きく変化し、それによってうまれる様々のストレスや生活習慣病との関連も指摘されている。そこで熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学分野の片渕秀隆教授、本田律生講師、岡村佳則助教の三人の医師に不妊症とその治療について話を伺った。

――不妊症とその治療について伺います。

片渕　30数年前まで不妊症は赤ちゃんができない病気としてすまされ、多くの場合赤ちゃんができないものとして夫婦であきらめていました。また当時は、不妊症の原因はすべて女性にあるという見方でした。その後、男性、女性がそれぞれ三分の一、双方に原因があるのが三分の一という比率であることが分かってきました。

女性に対する治療は1960年代に排卵誘発剤が開発され、1978年7月25日にイギリスでルイーズ・ブラウンという女の子が体外受精胚移植で生まれ、当時は「試験管ベビー」ともいわれ、必ずしも社会的に広く認知されませんでした。しかし、これによって不妊症の治療は一変しました。

世界では400万人以上が体外受精によって生まれ、日本でもすでに17万人以上に達しています。日本産科婦人科学会の報告によると2009年、日本では年間106万人の赤ちゃんが生まれ、うち2万5千人が体外受精胚移植によって生まれています。42人に1人の割合です。（表1）

ルイーズ・ブラウン誕生にかかわったイギリスのエドワーズ博士が2010年にノーベル医学生理学賞を受賞しましたが、それはルイーズ・ブラウンが28歳で男の子を産んだことによって、体外受精胚移植が次の世代をつなぐ優れた技術であることを社会が認知した結果でした。

――不妊症の症状や原因を紹介してください。

本田　結婚してきちんと性交渉があるのに2年間妊娠しない状態を不妊症というのが一般的です。原因はさまざまありますが、女性の場合大きく分けると、排卵がきちんと起こらない排卵障害、卵管がつまる卵管障害、子宮内の異常で受精卵が着床できないなどがあります。男性では精子の問題です。診断はそれらの因子について数か月をかけて検査し、原因を突き止めて治療します。

表1　生殖補助医療における出生数、出生児割合

	2007年	2008年	2009年
総出生数	1,089,000	1,091,000	1,069,000
ART総治療周期数	161,164	190,613	213,793
ARTによる出生数	17,620	20,422	25,601
ART出生児が占める割合（%）	1.62（62人に1人）	1.87（53人に1人）	2.39（42人に1人）

※日本産科婦人科学会、ART（生殖補助医療）データ集より

夫婦で不妊治療の相談を

――不妊治療に対する理解は進んでいますか。

本田　最近はインターネットなどで多くの情報を得てよく勉強されたうえで病院に来られる患者さんが増えました。昔に比べると理解は深まっています。ご夫婦で来られて診察を受け、その検査成績や今後の治療方針について夫婦の問題として考えていただくことが必要です。ご主人には十分に協力していただきたいですね。

片渕　不妊は病気ですが、これによって生命に危機を及ぼすという病気ではありませんので時間が経過しても大きな問題にはなりません。しかし、人間には赤ちゃんを正常に、自然な形で産みやすい時期があり、昔も今も変わらず20代から30代です。結婚して1年以内に自然な形で妊娠することができない場合、夫婦間に本当に赤ちゃんが欲しいという希望があれば積極的に医師に相談すべきです。時間が解決するということはなかなかありません。

――不妊の原因について。

片渕　女性の場合、機能的異常と器質的異常があります。排卵誘発剤の使用が増えてきましたが、これは排卵の機能が悪く、薬を使うことによって治す治療です。一方、器質的問題では、子宮に筋腫がある、卵管が詰まっている、卵巣に腫瘍がある、卵管や子宮の周囲がクラミジアで癒着している、などの病気が挙がります。

前者はホルモンの治療、さらには、先に述べた体外受精胚移植という技術で治療しますが、後者の場合は外科的治療が必要です。

一方、男性は精子の数、運動、奇形の割合などが関わってきます。最近多いのは性交障害（ED）が増えています。

人工授精から体外受精へ

――具体的な治療法について。

岡村　排卵に合わせて最も自然な形で行うタイミング法がありますが、これでなかなか妊娠しない場合、次のステップとして人工授精があります。また、精子数や運動率が低い場合が人工授精の適応です。洗浄した精子を子宮内に注入するという方法です。

体外受精は、卵管閉塞・卵管癒着といった卵管性不妊や、子宮内膜症がその適応となります。

通常、体外受精はシャーレの中で卵子と精子を受精させるのですが、さらに精子の数が少ない場合、顕微鏡を使って一つの卵に直接一個の精子を入れる顕微授精があります。また精子の数は十分にあるが、精子がうまく卵子のなかに入っていかないという受精障害も顕微授精の対象になります。

片渕　男性や女性には若くしてがんにかかる人がおり、精巣や卵巣がんの場合、治療をする前に精子や卵子をとって受精させておくという不妊対策があります。また白血病の場合は抗がん剤を使うと、副作用として卵子や精子の機能がなくなるため、精子や卵子をとっておけば、病気を治したあとに赤ちゃんに恵まれるチャンスがあります。これは人類にとって福音です。

外科的手術でまず治療

岡村　妊娠を希望される方の年齢が高くなり、それにつれて子宮筋腫や子宮内膜症を合併する率が高くなっています。それらを外科的手術で治療し、お腹の中を正常な状態に修復した後に自然妊娠をめざすことが大切です。

本田　子宮筋腫がある、卵巣に腫瘍がある、クラミジア感染症による癒着があるなど器質的な病気をどう治療するかが問題です。がんの手術は一般のクリニックではやりません。不妊治療というと体外受精胚移植が万能のように考えられていますが、器質的な異常や病気の治療ができなければ不妊という症状を悪くすることになります。不妊治療はさまざまの医療施設との連携が重要であることを理解して下さい。

――特定不妊治療の公費助成について。

本田　不妊治療の経済的負担の軽減をはかるために平成16年から国と地方自治体は特定不妊治療の費用の一部を公費で助成しています。平成22年度に補助が受けられます。熊本県と熊本市が実施自治体です。収入制限などがあり、詳細は最寄りの保健所や熊本県女性相談センター（096・381・4340）に問い合わせてください。

――不妊治療の今後について伺います。

片渕　体外受精胚移植は万能という神話が生まれています。しかし赤ちゃんが生まれてくるのに必要な卵子もその女性とともに年をとり老化していきます。人生50年といわれた頃は10代や20代で妊娠し、卵子の質がよく妊娠の条件も整っていました。しかし現代は晩婚化が進み第一子を産む年齢が女性は30歳を過ぎてしまい、さらに仕事や地位を確立した上で妊娠するとなると、どうしても30代後半から40代になります。

40歳を過ぎても体外受精胚移植によって妊娠は可能ですが、それに伴って赤ちゃんやお母さんへの様々のリスクが高くなります。生理的には20代、30代で妊娠することが最良であると多くの人が指摘しており、その通りだと思います。

――不妊無料相談所を紹介してください。

片渕　熊本県では、不妊対策事業の一つとして熊本県女性相談センターにおいて電話ならびに面接による無料相談を行っています。

また、熊本大学医学部附属病院でも無料相談を行っています。病院内の不妊外来で、不妊看護認定看護師が面接による相談に応じています。事前に電話（096・373・5973）で予約しお気軽にご利用下さい。

熊本大学大学院生命科学研究部
産科婦人科 講師
本田 律生 氏
Ritsuo Honda

1988年3月熊本大学医学部医学科卒業、同附属病院産科婦人科研修医、水俣市立総合医療センター産婦人科を経て1997年に熊本大学医学部附属病院産婦人科助手、2010年より同講師、現在に至る。
日本生殖医学会生殖医療専門医。

熊本大学大学院生命科学研究部
産科婦人科 助教
岡村 佳則 氏
Yoshinori Okamura

1993年熊本大学医学部卒業、同附属病院産科婦人科研修医、米国ペンシルバニア大学医学部研究員を経て2003年助手を経て、助教 現在に至る。
日本生殖医学会生殖医療専門医。

子どもが欲しいけどなかなか授からない
妊娠しても流産を繰り返してしまう
不妊の検査・治療・費用について知りたい

些細なことでも、どうぞお気軽にご相談ください

不妊無料相談

熊本大学医学部附属病院では、不妊看護認定看護師による不妊相談を行っています。

熊本大学医学部附属病院 不妊外来不妊相談室　☎096-373-5973
場　所　熊本大学医学部附属病院不妊外来
日　時　火曜日・木曜日 14:00～16:00
相談方法　面接相談のみ ※お電話で予約をお願いします。

また、熊本県においても不妊対策事業の1つとして、不妊に関する電話ならびに来所相談を行っています。

熊本県女性相談センター　☎096-381-4340
電話相談　平日および土曜日 9:00～20:00（12:00～13:00を除く）
来所相談　月1回（第4金曜日）産婦人科医師対応 ※予約が必要です。

私達は不妊症の治療に全力を尽くします。（順不同）

日本医療機能評価機構認定病院
医療法人 創起会
くまもと森都総合病院
（旧 NTT西日本九州病院）
〒862-8655 熊本市中央区新屋敷1-17-27
TEL:096-364-6000　FAX:096-362-5204
www.k-shinto.or.jp

レディースクリニックなかむら
Ladies Clinic NAKAMURA
院長　中村 敏光
〒861-8039 熊本市東区長嶺南1丁目5-48
TEL.096-213-1555
http://www.lc-nakamura.com

日本医療機能評価機構認定
へき地医療拠点病院
球磨郡公立
多良木病院
―TARAGI MUNICIPAL HOSPITAL―
●介護老人保健施設「シルバーエイト」
●総合健診センター「コスモ」
企業長　後藤　平明
熊本県球磨郡多良木町多良木4210
☎0966(42)2560　www.taragihp.jp

阿蘇地域産科中核病院
阿蘇温泉病院
総院長　下村 貴文
産婦人科医師　荒尾 慎治　鄭 俊明
阿蘇市内牧1153−1
☎ 0967−32−0881

医療法人社団 松橋愛育会
まつばせレディースクリニック
理事長・院長　村本　順一
〒869-0502 宇城市松橋町松橋689-1
TEL.0964-34-0303
http://www.matsubase.or.jp/

不妊治療助成指定機関
●産婦人科 ●不妊治療 ●体外受精研究所
医療法人セント・ソフィア
片岡レディスクリニック
TEL(0965)32-2344
月～金…9:00～12:00／14:30～18:30
土　…9:00～11:00／13:00～14:30
駐車場65台収容
八代市本町3丁目3-35

医療法人社団　ソフィア愛育会
ソフィアレディースクリニック水道町
● 診療科目 不妊治療・婦人科 ●
診療時間　月・火・木・金・土曜　10:00～14:00、16:00～19:00
水　曜　9:00～13:00、14:00～18:00
日曜・祝日　8:30～12:30
〒860-0844　熊本県熊本市中央区水道町9番5−1
☎(096)322-2996　http://www.suidouchou-lc.jp/
※自家用車をご利用の方は、専用駐車場（軽自動車1台、普通自動車5台、駐輪場）、提携駐車場「ぱーく・すりー」または「パスート24」をご利用下さい。（駐車券は受付までお持ち下さい）

土・日・平日も夜8時迄　東バイパス・神水電停そば 市民病院正面
（月・金は午後5時まで）
不妊治療婦人科　●完全予約制　●入院諾
ART女性クリニック
●日本生殖医学会 生殖医療専門医　●日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医
●日本産科婦人科学会 産婦人科専門医　●日本臨床細胞学会 細胞診専門医
院長　医学博士　小山 伸夫
診療時間
平　日　9:00～13:00　15:00～20:00
月・金　9:00～13:00　15:00～17:00
祝　日　9:00～15:00
熊本市東区神水本町25-18号
Tel 096-360-3670
Fax 096-360-3815
H.Pアドレス　http://www.art-kumamoto.com
Eメールアドレス　info@art-kumamoto.com
東バイパス　神水・市民病院前　市民病院
駐車場24台有

医療法人 朋岳会
伊井産婦人科病院
院長　松浦 講平
日本生殖医学会 生殖医療専門医
●診療科目　・産科 ・婦人科 ・麻酔科（伊井 千景）（不妊治療・体外受精相談）
●診療時間　平　日　午前9時～午後6時
土曜日　午前9時～午後1時
日曜・祝祭日　休診
熊本市中央区大江本町8-15
TEL 096-364-4003
伊井産婦人科　検索